

11月号他ページの主な記事

2面 本年度叙任式を執り行う、9支・中国布 壮年会研修会を開催

3面 各支庁・布教区で婦人会の合同御講・研修会を開く

4面 「志厚く本山初灯明料の奉納を!」

5面 優秀寺院・信徒にその取り組みを伺う

6面 体験談:5支 遠妙寺 アイアン・ルッテン姉、妙泉寺 関口媛花乃姉

7面 ネパール大地震 第一回支援活動を実施 報告②

8面 佛立開導日扇聖人物語 第11回、台湾・佛立寺 開導会を奉修

本門佛立宗機関紙

佛立新聞

THE BUTSURYU SHIMBUN

平成27年11月1日発行

発行所
本門佛立宗宗務本庁
京都市上京区御前通一条上 東野町110番地 (〒602-8377)
電話 (075)461-1166 (代)
振込口座 京都 18650
発行人 永江日盡 / 編集人 橋口清遠

購読料加料 一部 50円

明け方までの雨もあがり 本山高祖会を盛大に奉修

宗門各種式典も執り行う 木村宗務総長以下の辞令も下付

去る十月十一日、本山・宥清寺の高祖会が第一座に権大僧正・吉田日祥上人、第二座に講尊日誠上人、第三座に講有日開上人、第四座に講尊日裔上人を、それぞれ奉修導師にお迎えし、盛大に奉修された。

当日は明け方まで降っていた雨も止み、好天のお計らいをいたたく中、本山信徒を始め当番参詣の第一・三・六支庁、そして他の支庁から計三三〇〇名を超える参詣で賑わった。



「佛立開花運動の更なる推進を」と激励される講有上人

参詣の内訳は、本山信徒 二〇九三名、当番支庁 五四四名、他の支庁 四七五名、出座教務 二〇三師、計 三三一五名であった。

第三座で宗門式典(有上人)の御法門前には宗門式典として、高祖会全国奉納金の第一回奉納式、追贈授与式、僧正辞令下付、住職任命辞令下付、法臘五拾年教務表彰、第十二回信徒授級褒賞授与式、参議・宗務総長以下総局員・宗務員・支庁長任命辞令下付、佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃法要、奉修本部役員辞令下付が、それぞれ執り行われた。



本堂いっぱいの参詣者で賑わった本山の高祖会

木村総長が代表奉納 [2]追贈授与式 (加藤淳真師が代理拝受) [3]僧正辞令下付 小野山 日岱師①長栄寺 川手 日成師⑤信立寺 近藤 日護師②本行寺 久保田日拓師⑧苦小牧寺 山下 日翠師①鶴集寺 萩原 日榮師⑩長薫寺 荻森 日薫師⑥顯寿寺 新井 日友師⑥妙玉寺 松本 日就師②妙風寺 橋口 日清師②清現寺 (近藤日護師が代表拝受)

[4]住職任命辞令下付 ④佛立寺 加藤淳真師 [5]法臘五拾年教務表彰 野口 日量師①妙宝寺 石川 日翠師③建國寺 [6]第十二回信徒授級褒賞授与式 寺院及び教会 一級から十級までの授級者 一万三八〇六名 代表拝受者 ①宥清寺 今達孝昭氏 [7]参議・宗務総長以下総局員・宗務員・支庁長任命辞令下付 宗務総長 木村日覚師 が代表拝受 [8]佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃法要 奉修本部役員辞令下付 奉修総本部長 木村日覚師が代表拝受 式典の後、奉修局・奥

住職任命 海外・韓国・新清寺 禹 淳旭 (平成27年4月1日付) 加藤 淳真 (平成27年6月23日付) 住職代務者 11支・尼崎・隆雲寺 山内 良徹 (平成27年8月5日付)



奉納を代表言上する木村総長 (右は西村財務局長)

高祖会全国奉納金奉納式



代表拝受・近藤日護師 (右から4人目) 等、僧正叙任の方々

僧正辞令下付



野口日量師



故・加藤現康師



石川日翠師



加藤淳真師

追贈授与・住職任命辞令下付



奥 順作氏



木村日覚師

総局員等 奉修本部 辞令下付

法臘五拾年教務表彰

奉修局挨拶

本年度のノベル賞受賞者が発表され今年も二人の日本人がノベル賞を受賞した。このうち生理学・医学賞を受賞した大村智氏は記者会見で、次代を担う若者に對し何事にも失敗を恐れずに取り組み姿勢を持つてほしいと語った。大村氏の研究は、各地から採取してきた土に含まれる微生物を年間二千〜四千人も培養し、それをさらに四千〜六千もの培養液につけてチェックするといふ膨大な作業を長年繰り返した上に成り立っている。そのうちのひとつが世界中で三億人ともいわれる人々を救う偉業につながっており、言い換えばこの成功は膨大な失敗の上に成り立っていると言える。私たちは、できるならば失敗をせずに成功をつかみたいと願うが、失敗せずに成功にたどり着くことは、まずまずであるというのが現実だろう。大村氏は「一回や二回、失敗したからってどうってことないよ」と述べ、失敗を繰り返すうちにやりぬく強さを身につけることができると述べている。お互いは信行ご奉公の上で、失敗や無駄に思えて挫けそうになるときもあるのではないだろうか。しかし、信行ご奉公は全て積み重ねが大事であり、その積み重ねられた功徳が無駄に終わることはない。本年度のご奉公もあと一月、蒔いた種は必ず芽を出しやがて喜びの花を咲かせる日がきつと訪れる。失敗を恐れず、弛まぬ信行に励ませてください。

11月のこよみ

11月 高祖会全国奉納金第二回奉納式

20日 本山奉仕「弘通担当者の部」

27日 第二一〇回臨時宗会

1日 灯台記念日 日本最初の洋式灯台である観音埼灯台の起工日が、明治元年(一八六八)の八月三十日(新暦では十一月一日)であることにちなみ、昭和二十四年に海上保安庁により制定された。この日は、全国各地の灯台が一般公開される。

3日 文化の日 十一月三日の明治節(明治天皇の誕生日)が、昭和二十三年から改めて文化の日制定された。戦争をなくし、福祉国家を建設する旨を宣言する平和憲法が公布された日、「平和を愛し、文化をすすめる国民の祝日」と定められた。この日はは皇居で文化勲章の授与式が行われる。また、年間でも最も晴れることが多い日でもある。

8日 立冬 初め冬冬の気配が現われてくる日。秋分と冬至の間で、この日から立春(二月四日)の前日までが冬となる。

9日 太陽暦採用記念日

11日 小松原御法難文永元年(一二六四)、高祖日蓮大士は天津の工藤吉隆公の招きに応じ赴く途中、夕闇せまる東条小松原にて、日蓮大士に恨みを持つ、当地の地頭・東条景信率いる数百人の襲撃に遭われた。弟子の鏡忍坊は戦死、急報に接し、駆けつけた吉隆公も乱戦の中に消え、日蓮大士も眉間に三寸ばかりの刀傷を蒙られました。

15日 七・五・三 子供の成長を祝う行事。今では全国で盛んに行われているが、元来は関東における地方風俗であったもの。

幼い子供が無事に成長させていたいた御礼と、今後も無事成長して、法灯相続ができるようにと所属のお寺にお詣りさせていただく日です。ゆめゆめ親の見栄はりのコンクールにならないようご用心を。

23日 勤労感謝の日 「勤労を貴び、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう」との趣旨で定められた国民の祝日。収穫物に感謝する大なる行事として、飛鳥時代から始まった新嘗祭(にいなめさい)が、戦後に改められたもの。「働」という字は、和製の漢字だが、人が動き、ひとを楽にするという日本人の思想が表れている。

本年のノベル賞受賞者が発表され今年も二人の日本人がノベル賞を受賞した。このうち生理学・医学賞を受賞した大村智氏は記者会見で、次代を担う若者に對し何事にも失敗を恐れずに取り組み姿勢を持つてほしいと語った。大村氏の研究は、各地から採取してきた土に含まれる微生物を年間二千〜四千人も培養し、それをさらに四千〜六千もの培養液につけてチェックするといふ膨大な作業を長年繰り返した上に成り立っている。そのうちのひとつが世界中で三億人ともいわれる人々を救う偉業につながっており、言い換えばこの成功は膨大な失敗の上に成り立っていると言える。私たちは、できるならば失敗をせずに成功をつかみたいと願うが、失敗せずに成功にたどり着くことは、まずまずであるというのが現実だろう。大村氏は「一回や二回、失敗したからってどうってことないよ」と述べ、失敗を繰り返すうちにやりぬく強さを身につけることができると述べている。お互いは信行ご奉公の上で、失敗や無駄に思えて挫けそうになるときもあるのではないだろうか。しかし、信行ご奉公は全て積み重ねが大事であり、その積み重ねられた功徳が無駄に終わることはない。本年度のご奉公もあと一月、蒔いた種は必ず芽を出しやがて喜びの花を咲かせる日がきつと訪れる。失敗を恐れず、弛まぬ信行に励ませてください。